

いわちゃん ポスト

千葉県議会議員

岩井 やすのり



1970 年生まれ 専大卒・早大院修了 4期目現職(印西市・栄町選挙区)

栄町安食台 2-26-23 fax0476-36-7802 iwai.yasunori@outlook.jp

DC 反対署名が後押し

一刻も早い地区計画見直しを

千葉NT中央駅前のデータセンター(DC)問題。8月末には8千5百筆の反対署名(現在は1万筆超)が市長に提出されるとともに、同日に開かれた印西市議会では、DC反対決議が全会一致で可決されています。

●市民と市議会が駅前DCにNO!

7月末よりNT中央駅などで行われてきた反対署名活動は、わずか1か月で約8千5百筆に到達。事業者と住民がコミュニケーションを図る対話の機会がないとして、建設準備のための事業者側との協議を進めないよう求め、8月29日に印西市長に提出されました。また、同日に開かれた印西市議会では、「市の玄関口としてよりよい景観を創造する必要がある」「(DCは)駅周辺を除いた場所に整備されることを求める」とする、DC反対決議が全会一致で可決されています。

多くの市民が駅前DCに反対であることを示し、市議会もその声を強く後押ししたわけで、意義ある一日となりました。

●サンクタス西側駐車場にもDCの可能性

今回の反対署名、反対決議を評価する際には、問題となっている中央駅前、イオンモール東側のDC計画はもちろんのこと、今後持ち上がるであろう、駅周辺地区

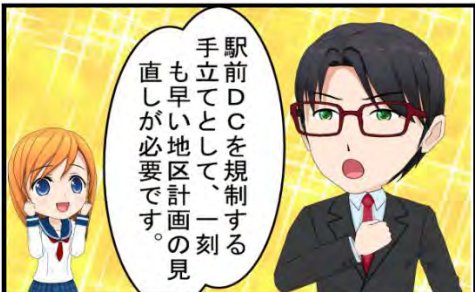
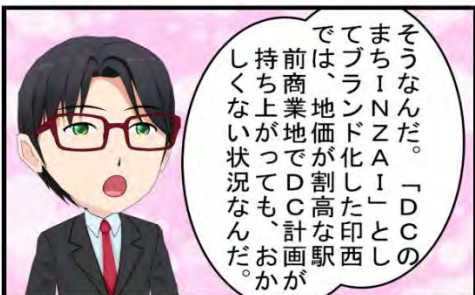
の他のDC建設にNOを突き付けたことも見逃せないところです。

「DCのまちINZAI」としてブランド化した印西では、地価が割高となる駅前商業地域においても、さらにDC計画が持ち上がる可能性があります。現に、中央駅前のサンクタスマンション西側、イオン正面にあるイオンモール駐車場については、海外の関係サイトにDC建設予定地として紹介されていることが明らかとなっており(現在はページ削除)、関係住民から不安の声が上がっています。

一連のDC反対は中央駅前の一部地域にとどまらず、今後建設される可能性がある千葉NT中央駅、印西牧の原駅、印旛日



医大駅周辺を含む、市全体のまちづくりに関わる重要な問題と言えるわけです。



樹木伐採でカワウ91%減 印西・花の丘公園

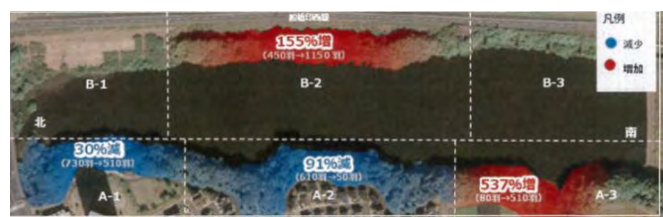
●「糞の臭いがひどい」「車のボンネットが…」

千葉NT中央駅の近く、県立北総花の丘公園周辺で問題となってきたのは、糞による生活環境被害。公園内には多くのカワウ、サギが生息しており、近隣住民からは「糞の臭いがひどい」「洗濯物を外に干しておけない」「車のボンネットが汚れる」など悲鳴が上がっているのです。

●住宅開発進む A-3 地区で激増 対策強化へ

岩井が最初に相談を受けたのは2019年。隣接地区である戸神台東自治会より、「いわちゃんポストを見て…」と連絡をいただいたのがきっかけです。獣害防除用「リンロンテープ」の設置など対策を重ねてきたものの、十分な効果が得られてこなかった中、近年、県が取り組んでいるのが樹木の伐採。カワウが巣作りを行う池に面する樹木が対象で、約2600㎡を12の工区に分けて作業が進められています。

昨年11月に県が実施した調査によれば、住宅街に隣接したA-2地区(上図参照)で、610羽から50羽と前年比91%減。A-1地区でも



カワウの生息数変化(下方向が住宅街)

730羽から510羽と30%減となっています。

一方、樹木伐採により、カワウが他エリアに移転する事は織り込んでいたところですが、新たな住宅開発が進むA-3地区で537%と激増。県も同地区での対策を講じていくとしています。

●サギが急増 A-1 地区は夏以降に伐採

さらに、課題として残るのが、A-1地区のサギです。近年、急増してきたサギは同地区に集中しており、隣接マンションの住民から多くの苦情の声が上がっています。サギは「レッドデータブック」に掲載される保護鳥獣の一種であるため、いつでも対応できるというわけではなく、ひなが巣立つ夏以降に着手すること。引き続き、適切な対応を求めてまいります。

自民党 党員募集



年党費4千円・お申込は岩井事務所まで
iwai.yasunori@outlook.jp

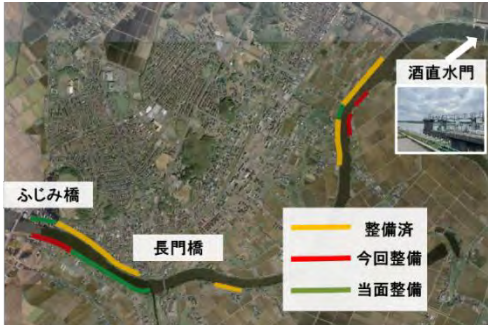
●県有地売却延期すでに反対署名の効果 さて、反対署名、反対決議により、市が駅前DC反対政策を進める大義名分ができたわけで、DC建設に規制をかける「地区計画の見直し」の促進が期待されることです。トライアル跡地など市内2か所の県有地は年度内に売り出す予定でしたが、これらの動きを受けて県は売却を延期。DC規制「前夜」と言える状況となっているのです。先ほど指摘したサンクタス西側の土地やCNCが関係する駅周辺の土地への対応は急務を要するところで、一刻も早い地区計画の見直しの実現を期待したいと思います。

長門川事業で住民説明会 騒音対策に課題

栄町や印西市、印旛沼流域の洪水対策として進められている、長門川護岸整備事業。9月には、栄町にて当面の事業計画に関する住民説明会が開かれましたが、住民からは騒音問題など厳しい意見が上がっています。

●護岸整備に10年、築堤完了にあと20年

県下で甚大な被害をもたらした令和元年10月の大雨



では、印旛沼流域の佐倉市で10月観測史上1位となる雨量を記録。印旛沼の水位が極めて高い状況が続き、沼に水を流すことができなかった鹿島川や高崎川流域で、広く冠水被害に見舞われる事態となっています。

こうした印旛沼流域の浸水被害を軽減するため、印旛沼水の放水河川として位置づけられる、長門川の排水能力増強を目指し、

令和3年度から着工されているのが長門川の護岸整備事業です。鋼矢板を用いた護岸整備を行った上で、後に堤防を整備することとなっており、護岸整備の完了までにあと10年程度、築堤の完了には20年からの期間がかかるものとみられています。

●「どしんどしん」「どしゃーん」雷のような音

さて、この9月に住民説明会が開かれたのは、栄町和田地区、上町地区の2か所。当面の期間に行われる護岸整備工事について、県土木事務所から沿川住民に説明が行われています。

住民がまず問題視したのは騒音問題。今回の工事では、困難な丘側からの作業を避け、ふじみ橋付近に船着き場を設けた上で、作業船による川側からの工事が行われてきました。しかし、その船着き場周辺の住民からは、大きな石などの積み下ろしの際に「どしんどしん」「どしゃーん」と雷のような大きな音が鳴り響くと悲鳴の声が上がっています。護岸工事の場所は工事の進捗に

よって変われども、船着き場は変わることはない

わけで、長期間にわたる住民の負担は計り知れないものがあります。

これまで事前に伝えられてこなかった工事日程について、住民に丁寧に連絡するようにすること、船着き場周辺の防音対策と作業上の配慮、加えて作業船方式の見直しについても検討を求めています。

●十五町歩地区を「死に地」にはさせない

また、上町地区で複数の声が上がった、十五町歩地区の用排水問題も極めて重要。同地区は農業振興地域であるにもかかわらず、そもそも用排水機能が十分ではありません。長門川の護岸整備が無計画に進められることがあれば、十五町歩地区は農生産活動ができない「死に地」と化すわけで、町の基幹産業である農業を守るためにも、地元住民や栄町の声に十分に配慮しながら事業を進めていく必要があります。

今回の多くの住民の声を受け、12月県議会本会議にて長門川整備事業の課題について取り上げてまいります。

千葉竜ヶ崎線 バイパス 住民「神対応」で共有地問題が決着

道路予定地上に取得困難な共有地があることにより、工事がストップしていた県道千葉竜ヶ崎線バイパス。印西市は8月、地元町内会の協力を得ながら、同共有地の取得に成功しています。

●バイパス道路予定地上に111名の共有地

現道の県道千葉竜ヶ崎線は、印西市内において道路の線形が悪く、道幅も歩道が確保できないほどの狭さ。大型車両の往来も少なくない中で、小学生が肩をせばめながら通学しなければならない状況にあります。

これらの状況を受け、事業が進められてきたのが千葉竜ヶ崎線バイパス。印西市草深と国道356号・木下駅南口入口交差点の約2.5キロを結ぶ計画となっています。令和元年度には、木下駅方面から約700メートルが開通し、残りはあと1.5キロにまで迫っているものの、印西市大森の道路予定地上に111名もの住民が所有する共有地があり、道路事業がストップしたままだったのです。

●法務局の助言で地元町内会が「管理を放棄」

相続登記がなされなかったりして、所有者がわからない、所有者がわかっても連絡がつかない状態にある「所有者不明土地」は、道路事業など公共工事の大きな障壁となるもので、各地で問題となっています。本件の共有地においても、一人一人の地権者の所在を追って、全ての同意を得るというのは難しく、用地取得問題は暗礁に乗りかけていたのです。

県は当該共有地を一括で譲り受ける方法がないか検討し、町内会を地縁法人化した上で買収する方法など模索してきたものの、うまくいきませんでした。そこで、地元自治体である印西市が共有地取得について法務局に相談

したところ、大森地区の共有地が「区持ち」として、町内会によって管理されてきたことから、町内会が管理を放棄した形として、市が譲り受ける方法があるのではないかと助言をもらうこととなります。



大森区では総会を開き、道路用地として利用されることを念頭に同地の管理放棄を決定。この8月の印西市を所有者とする不動産登記を以て、土地所有権の移転が完了したのです。なお、このような手法での共有地の取得は全国初と見られています。

●大森区による無償譲渡という「神対応」

今回の所有権移転が実現したのは、地元町内会である大森区とその住民による、「神対応」とも言える協力があつてのこと。共有地は同地区から無償譲渡されたわけで、地元住民や市関係者には頭が下がる思いです。木下、大森地区と千葉NT地区を結ぶ待望のバイパス道路となるだけに、地元選出の県議会議員として早期開通を働きかけてまいります。



印西市大森～鹿黒南
千葉竜ヶ崎線バイパス
「共有地」買収問題
100名超の所有者不明土地
地元町内会の「神対応」とは

隔週で動画を配信！ぜひチャンネル登録を

YouTube
でもっと詳しく！